

令和7年7月

南牧村小中学校建設検討委員会 からお知らせ



1. 南牧村小中学校建設検討委員会とは

南牧村立小中学校の施設整備等に関し、全村一体となって学校づくりを進めるため、設置された委員会です。

南牧村小中学校建設検討委員会の委員は、次の各種団体等から選ばれた 44 名で構成されています。

- (1) 南牧村教育委員
- (2) 南牧村立小・中学校代表
- (3) 南牧村立小・中学校の保護者代表
- (4) 南牧村立保育園の保護者代表
- (5) 地域住民の代表
- (8) 学識経験者
- (9) 村長が特に必要と認める者

2. これまでの経緯

南牧村では長年学校づくりに関する議論が重ねられてきました。平成 29 年 5 月 23 日には、前回の南牧村小中学校建設検討委員会において中間報告書が提出されています。

本委員会は、この中間報告書までの議論を前提とし、村長に対し意見を述べます。

まず、この中間報告では、『今回の中間報告では、学校施設の在り方については、小中一貫教育を進める上で小学校と中学校が一体となったものが望ましいとの意見が多数ですが、今後さらに、南牧村に最も適した望ましい教育環境の実現に向けて議論を深めて参ります。』

また、新しい学校施設の建設場所については、いくつかの候補地を検討しましたが、現時点において1か所に決定するには至らず、現在の南小学校敷地、または中学校敷地周辺の2候補地に絞り、中間報告とすることが妥当であると考えます。』とあります。

当委員会では、この小中一貫教育制度の導入と建設場所について討議し、意見書のとおり意見をまとめました。

【意見書要旨】

1. 小中一貫教育制度の導入について

義務教育学校という学校種類がのぞましい

と委員の意見をまとめました。多くの委員の意見が一致しました。

2. 建設地の選定について

前回の小中学校建設検討委員会の中間報告で出された南小学校敷地、中学校敷地周辺2つの建設候補地について、教育環境として甲乙つけがたいので、様々な視点や立場から総合的に検討し、判断された建設地とされたい。

という意見でまとまりました。建設地の選定に当たっては、参加した委員それぞれが考えを持っております。9回行った、各会議の議事録や、振り返りカードという各委員の意見まとめがありますので、そちらもお読みください。



南牧村 HP 会議資料掲載

意見書

令和 7 年 6 月 23 日

南牧村長 有 坂 良 人 殿

南牧村小中学校建設検討委員会

会長 中嶋 光久

令和 7 年 1 月 1 6 日付 6 南牧第 3 4 号にて、当委員会に貴殿から尋ねられた内容について、南牧村小中学校建設検討委員会設置要綱第 2 条に基づき、意見を述べます。

御尋ねの内容 今後の南牧村立小中学校に望まれる学校環境のあり方

意 見 書

はじめに

南牧村では長年学校づくりに関する議論が重ねられてきました。平成 29 年 5 月 23 日には、前回の南牧村小中学校建設検討委員会において中間報告書が提出されています。

本委員会は、この中間報告書までの議論を前提とし、意見を述べます。

まず、この中間報告では、『今回の中間報告では、学校施設の在り方については、小中一貫教育を進める上で小学校と中学校が一体となったものが望ましいとの意見が多数ですが、今後さらに、南牧村に最も適した望ましい教育環境の実現に向けて議論を深めて参ります。』

また、新しい学校施設の建設場所については、いくつかの候補地を検討しましたが、現時点において 1 か所に決定するには至らず、現在の南小学校敷地、または中学校敷地周辺の 2 候補地に絞り、中間報告とすることが妥当であると考えます。』とあります。

当委員会では、この小中一貫教育制度の導入と建設場所について検討し、意見を述べます。

1. 小中一貫教育制度の導入について

義務教育学校という学校種類がのぞましい

理由：南牧村の子どもの数の急激な減少により、小中一貫教育をすすめることが当委員会でものぞましいとの意見が多数となりました。また、小中一貫教育制度の中の学校種類の一つとして、義務教育学校があります。委員会での討議において、この義務教育学校のメリット、デメリット、また小中一貫校との違いについて学びました。

義務教育学校は、小中一貫校と違い、小学校と中学校が一つの組織であるため、1人の校長の下、9年間を見通した教育目標を掲げ、一つの学校の教職員として児童生徒の指導にあたることができるようになります。小学校の先生、中学校の先生という区別なく、一つの学校として教職員が連携することで、小学校高学年での専門的な指導の充実や、つまづきやすい学習内容についての長期的な視点に立ったきめ細やかな指導を行えるとともに、9年間を見通した教育カリキュラムの編成が可能になるメリットがあります。また、子ども達の教育環境だけでなく、働き手となる教職員確保の問題について、小中の教員を共通で活用できるため、人材不足に対応しやすくなります。他に、PTA活動についても1学年の人数が少ないなかで負担が増しているという意見もあり、義務教育学校にすることで、PTA活動の負担軽減や改善も図れるのではないかという意見も出されました。

加えて、個人の特性によらず全ての学齢期の子ども達を学習・生活で孤立させない学校、個人の能力に合わせて少人数学級、特別支援学級や孤立児童支援学級を含め、自由進度学習を取り入れた学校体制をつくるべきという意見もありました。

一方で、委員会内において、小学校卒業式や中学校入学式といった進学する際の区切りがなくなることや、6年生のリーダーシップが発揮できる場面が失われてしまうことへの不安、小学生と中学生の年齢差への懸念の声が委員からありました。

意 見 書

そのため、当委員会では、義務教育学校という学校種類がのぞましいと考える一方、小学校卒業式や、中学校入学式に代わるイベントを実施したり、6年生のリーダー性を育めるような工夫、例えば生徒会や児童会の役員といった役割を持たせるなどの工夫をするといったことや、小学生と中学生の年齢差に配慮した年齢別のゾーン分けといった工夫をするなど、義務教育学校の特性を活かしつつ柔軟に対応することをのぞみます。

2. 建設地の選定について

中間報告で出された南小学校敷地、中学校敷地周辺 2 つの建設候補地について、教育環境として甲乙つけがたいので、様々な視点や立場から総合的に検討し、判断された建設地とされたい。

理由：建設候補地について、当委員会では当村の教育ビジョン『地域みんなで育てる・大人も学ぶ「共学び・共育ちの村」』このビジョンにふさわしい拠点となるような場所は、また子ども達のためにのぞましい教育環境は建設候補地のどちらであるのか、討議を重ねてきました。

第 4 回南牧村小中学校建設検討委員会では、事務局からそれぞれの敷地の安全性、経費、教育環境、通学時間についてメリット・デメリットが示されました。それをみながらグループ討議をしましたが、各グループで意見が分かれました。南小学校敷地利用案、中学校敷地周辺利用案どちらかがいいというはっきりとした意見、どちらにしても早急に決定するべきという意見、難しく決められないという意見、校舎を建てることに時間がかかるのであれば、とりあえず小学校だけでも学びあうことを始められるのではないかとといった意見等多岐に渡る意見が出されました。中でも、第 4 回では早く決めてほしいという意見が多かったことを付け加えます。

次に、第 5 回南牧村小中学校建設検討委員会では、事務局で 2 つの建設候補地の実現性について評価を実施し、その評価書が示されました。建設費用、事業期間、自然環境・教育環境、教職員確保、部活動、特別支援教育、通学、地域拠点の機能の 8 項目について評価した内容です。この会でもグループ討議をしました。グループ討議の

意 見 書

あと、グループコーディネーターの意見発表は行わず何名かの委員が意見を発表しました。事務局での評価は、南小学校敷地利用案のほうが、中学校敷地周辺利用案より課題が多くあると評価されていました。課題が多くあると評価されていた点は、教職員確保と部活動についてです。

委員からの意見では、中学校敷地周辺利用案について、ＪＲ小海線を活用した部活動のしやすさや、地域防災拠点としての役割も併せて担えるという点、市場坂を通らずに村外在住の教職員が通勤できることから教職員確保をしやすいのではないかという意見が出されました。

南小学校敷地利用案については、中学校敷地周辺利用案より課題があると事務局で評価している点について、その課題を克服できる対策が委員より提案されました。魅力的な教員住宅建設、校舎そのものや、学校自体を特色ある学校にすることによる教職員確保への対策。厳しい自然環境をポジティブに考え、夏場を冷涼な気候を生かした高地トレーニングと考えることも可能ではないか。また冬場の為に屋内トレーニングルームを造るといった案が出されました。部活動にあたり、ＪＲ小海線野辺山駅から南小学校が少し遠い点も、バス運行を実施するなどしたらどうだろうという意見も併せて出されました。

南小学校敷地利用案のこれらの提案は、中学校敷地周辺利用案にある造成費９億円があれば、実施可能なことではないかとも発言がありました。

発表された意見以外にも、どちらの場所でもデメリットは解消できるのではないかと。中学校敷地周辺が土砂災害危険区域である以上、建設候補地として選定すべきではないといった意見もありました。どちらに建設するとしても、それぞれの環境や事情があり決まらず、村民の溝が深まってしまう。専門家や教育委員会の具体的な案に沿って話し合いをするのはどうかという意見もありました。

第5回までの討議における建設候補地の論点

視点1

○南小学校敷地利用案

- ・建設までのスピード感
- ・児童数
- ・安全性(災害危険区域ではない)

視点2

○中学周辺敷地利用案

- ・地域全体のため(防災拠点としての機能)
- ・教職員確保
- ・部活動

視点3

○地域における学校

- ・子どものための学校
- ・地域全体として考える学校
- ・地域の分断を望まない

意 見 書

委員会内ではこのように建設候補地の選定について様々な視点から意見が出されました。第6回南牧村小中学校建設検討委員会では、委員ではない11名の住民から意見発表をしていただき、さらに視点が違う意見を伺いました。各委員、それらの意見への受けとめ方は様々ありましたが、委員それぞれで事務局が行った建設候補地毎の評価を実施しました。

その結果は、次頁のとおりです。この結果をふまえ、第7回南牧村小中学校建設検討委員会では、これまで重ねてきた討議を振り返り、あらためて、学校の種類と建設候補地の選定、当委員会としての意見のまとめ方について討議を行いました。

委員評価のまとめを振り返ると、南小学校敷地利用案・中学校敷地周辺利用案ともに教育環境として評価に大きな差がありません。地域拠点としての機能も僅差です。それ以外の評価項目については、大きく差が開いています。

また、8項目の評価項目の中から、一番重要だと考える項目を選びました。委員の意見で、一番重要だと考える項目が多かったのは自然環境・教育環境ですが、建設費用や、教職員確保、地域拠点としての機能を重点項目だと考える委員もいます。ここにばらつきがありました。しかし個別の評価項目ほど差がないことが分かります。

意見書

(第7回検討委員会資料から一部抜粋)

	委員評価まとめ		
	南小学校敷地利用案	南牧中学校敷地利用案	一番重要だと考える事項
建設費用について (別添資料①建設費試算表)	○21 △1 空欄4	○3 △19 空欄4 注釈あり：○小中学校と公民館など他施設も(役場等)考える。あと南相木との導線、高速のIC周辺の開発も考慮すれば高くない。	5 注釈あり：①に○としたが、①～③同等の重要性があると思います。④～⑧は施設の後利用の仕方や、様々な工夫や他の市町村との話し合いが必要になると思います。
事業期間について (別添資料②スケジュールイメージ)	○20 △3 空欄3	○2 △18 空欄6	2
自然環境・教育環境	○13 △6 空欄6 注釈あり：優位性なし 注釈あり：どちらも良い 注釈あり：どちらとも言えない	○14 △7 空欄4 注釈あり：優位性なし 注釈あり：どちらも良い 注釈あり：どちらとも言えない	7
教職員確保について	○1 △17 空欄6 注釈あり：不明あえてなら△ 注釈あり：現状では△	○19 △2 空欄3 注釈あり：不明あえてなら△ 注釈あり：現状では○	4
部活動について (別添資料③地域スポーツクラブ)	○1 △18 空欄6 注釈あり：現状では△	○19 △4 空欄2 注釈あり：現状では○	0
特別支援教育について (特別な支援が必要な児童生徒の学びの場について)(別添資料④)	○6 △12 空欄7 注釈あり：優位性なし 注釈あり：どちらとも言えない	○18 △3 空欄4 注釈あり：優位性なし 注釈あり：どちらとも言えない	1
不登校対応(中間教室)(別添資料④)			
通学について	○14 △5 空欄6 注釈あり：優位性なし	○6 △13 空欄6 注釈あり：優位性なし	1
地域拠点の機能について(別添資料⑤)	○10 △8 空欄6 注釈あり：優位性なし 注釈あり：地域の区切り方⇒広域で考える	○14 △7 空欄3 注釈あり：優位性なし 注釈あり：地域の区切り方⇒広域で考える	4
評価基準 ○：優れている △：課題がある			空欄 2 注釈あり：学校体制が先

第7回南牧村小中学校建設検討委員会でのグループ討議を経たのち、出席委員、欠席委員ともに建設地の選定について意見を記載しました。そのまとめが次頁のとおりです。(別途意見書を出された委員の意見書は、会議資料に添付されています。次頁で一部抜粋しています。)

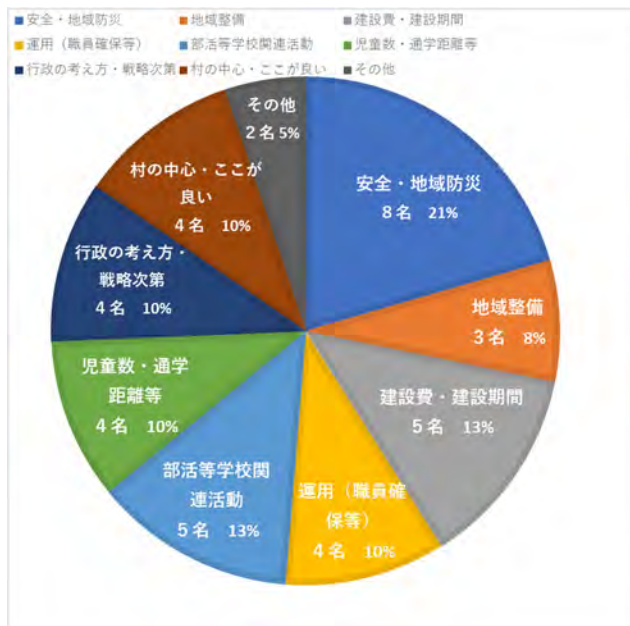
意見書

南小、中学というキーワードではっきりと南小学校敷地利用案を選定している委員が 8 人、中学校敷地周辺利用案を選定している委員が 4 人います。

(第 8 回検討委員会資料から一部抜粋)

2 建設地の選定について意見を記入してください	
1	委員のおひとりおひとりがご自身の立場がありながら、全体を見ようとしているのがすごいと思った。村として、どう学校づくりを考えているのか、村の考えはどうなのか知りたいという意見があった。子どもの学校、子どものため一でも地域の防災についてが優先されるのか
2	どちらもメリットデメリットある中で、結論を出すのは難しく感じます。学校を作る目的が防災等の複合的な部分を備える事なのか、学校の教育だけを考えるのかで変わる気もします。どちらでもいいということではなく、どちらも良い部分があるので決めるのはより難しいです。特別支援学級や教職員確保等がより充実する可能性がある場所が望まれると思います。
3	南小、建設までのスピード感を一番重要と考える。今後の造成費、建設費が高騰で難しいとならないように用地取得、造成に時間がかからない南小が良いのでは。
4	中学校 危険地区だからこそ地形を変えて高台を造成して対策する。9 億円⇒子供、地域の為と考えれば高くない。地域の事(郡・村だけでなく)を考えるとやはり中学校の方で建設した方が良いと考える。
5	建設費がネック お金はタダではない
6	1番大切なのは子ども達の安全面であって災害ハザードマップの区域に作るのは反対です。9 億円という費用もわざわざ使うべきではない気がします。9 億円かけて 100%安全が確保されるのであればいいのかもしれないけど、そんな保障はないと思う。
7	どの地区に建設したとしても決まってしまうば、保護者は子どものために動くので、少しでも早く決定できればいいと思います。未来ある子どもたちに借金を負わせるのは心配ですが。
8	選定するにあたり、村が学校をどの立ち位置で考えているのかが知りたいと思いました。学校中心なのか、村全体の中の学校なのかで変わるかなと思っています。村全体ならば、防災等も考えて選定した方が良くと思うし、学校中心なら距離やハザードマップを気にするなどで選定になるのかなと考えます。
9	建設地は安全な所であること。危険である場合は安全・安心に過ごせる場所にする。安全にして使用できる様にする。
10	南牧中学校に賛成。○の少なかった建設費用と事業期間については、この委員会で心配することではなく、評価に値するとは思わない。
11	児童数の推移を考えると、南小区の児童数が多いので、通学的手段としてスクールバス利用であれば、南小区で考えたいと思います。
12	ハザードマップの件もあり、南小の場所が良いと思います。
13	以前から問題点として挙がっている、部活動への対応についてですが、海ノ口駅から中学が少し近いですが、600m程の差しかないので南小でも特に問題ない。川上中学校も拠点になり得ると思うので、同様であると思う。
14	どの建設地も魅力的なので、デメリットを無くす約束(市場坂の改良、JR 駅までのバスを出す等) しっかりやれば反対意見も減って多くの人達が納得してもらえと思う。
15	南小敷地利用がいいと思います。
16	南小が良いと思います。理由は沢山ありますが、そのうちの1つに児童数があります。文部科学省による「小学校施設整備指針」の第1章第3節に「(2) 人口の自然増減や社会増減を検討して当該地域における児童数の将来動向を適確に推計し、学級編成の標準に関する将来の動向も考慮しつつ、計画を進めることが重要である。」と記されています。通う児童の多い方に建てるべきです。ただし、北小に通っている市場・広瀬・川平の保護者の意見を聞くべきです。(単に南中エリアとカウントするのではなく。) また、今回ご提示いただいた児童数の表をみると、最短5年後に学校ができたとして、該当する0才から10才の子供の数は、北小で89名、南小で118名でした。
17	私は中学校周辺にメリットがあると考えます。教員や部活、気候面から
18	
19	「災害危険区域」に指定されている所に建設する事は駄目です。眼をそむける訳にはいきません。災害リスクの低い南小付近(二者択一ならば)に建設。
20	災害のことを言われると何も言えなくなってしまうですが、今までの討議の中で南中周辺が良いと私は思います。(教員確保、支援教育、部活動等)
21	◎地域の中心を考えて南中付近がよい◎総合的に判断して、南小、南中付近どちらでもいいけど決定した所をどのように活用するかをしっかりと考えた
22	安全・安心出来る場所が決定基準になるように思います。
23	学校長としてこれまで多くの方の意見を傾聴してきました。はじめから意見を申す立場にないと考えております。皆様にご一任いたします。
24	学校長としてこれまで多くの方の意見を傾聴してきました。はじめから意見を申す立場にないと考えております。皆様にご一任いたします。
25	学校長としてこれまで多くの方の意見を傾聴してきました。はじめから意見を申す立場にないと考えております。皆様にご一任いたします。
26	南小エリアがベストだと思います。
27	南小学区の方は南小が良いでしょうし、北小学区の方は中学校が良いという意見が多いと思うので、もう一度中間地で建設することができないか検討してほしい。
28	H30に行われた検討委員会と同じ事になっている。それぞれのメリット、デメリットを精査して、「村長」に決めてもらった方が良く。その上で、どんな学校にしたいかの議論をすべき。H30の委員は、佐久穂に出向いたり、できるかぎりの深掘りをしている。今のメンバーでどうしても決めるのであれば、北小、中学、南小に出向き、自身で見えて感じた上でないと、感情論だけになる。「気候、風土、地域性、住民との近さ、将来性」のために委員一人一人ができることを考えて行動すべきと思う。
	別途意見書提出された方 その他3名

意見書



意見の中で、さまざまなキーワードがありますが、その視点別に整理すると左記のとおりです。意見のなかには、1つだけではなくいくつもキーワードがある場合があります。それは重複計上しています。

キーワードで分けた委員の意見の中にも、様々な視点があります。

それぞれの視点別にカウントした意見は下記のとおりです。（番号は、前頁に掲載した建設地の選定についてまとめの意見番号です。）

安全・地域防災 8名 21%

1：委員のおひとりおひとりがご自身の立場がありながら、全体を見ようとしているのがすごいと思った。村として、どう学校づくりを考えているのか、村の考えはどうなのか知りたいという意見があった。子どもの学校、子どものため一でも地域の防災についてが優先されるのか

4：中学校 危険地区だからこそ地形を変えて高台を造成して対策する。9億円⇒子供、地域の為と考えれば高くない。地域の事（郡・村だけでなく）を考えるとやはり中学校の方が建設した方が良いと考える。

6：1番大切なのは子ども達の安全面であって災害ハザードマップの区域に作るのは反対です。9億円という費用もわざわざ使うべきではない気がします。9億円かけて100%安全が確保されるのであればいいのかもしれないけど、そんな保障はないと思う。

8：選定するにあたり、村が学校をどの立ち位置で考えているのかが知りたいと思いました。学校中心なのか、村全体の中の学校なのかで変わるかなと思っています。村全体ならば、防災等も考えて選定した方が良いと思うし、学校中心なら距離やハザードマップを気にするなどで選定になるのかなと考えます。

19：「災害危険区域」に指定されている所に建設する事は駄目です。眼をそむける訳にはいきません。災害リスクの低い南小付近（二者択一ならば）に建設。

12：ハザードマップの件もあり、南小の場所が良いと思います。

22：安全・安心出来る場所が決定基準になるように思います。

9：建設地は安全な所であること。危険である場合は安全・安心に過ごせる場所にする。安全にして使用できる様にする。



地域整備 3 名 8 %

8：選定するにあたり、村が学校をどの立ち位置で考えているのかが知りたいと思いました。学校中心なのか、村全体の中の学校なのかで変わるかなと思っています。村全体ならば、防災等も考えて選定した方が良いと思うし、学校中心なら距離やハザードマップを気にするなどで選定になるのかなと考えます。

4：中学校 危険地区だからこそ地形を変えて高台を造成して対策する。9億円⇒子供、地域の為に考えれば高くない。地域の事（郡・村だけでなく）を考えるとやはり中学校の方で建設した方が良いと考える。

14：どの建設地も魅力的なので、デメリットを無くす約束（市場坂の改良、JR駅までのバスを出す等）しっかりやれば反対意見も減って多くの人達が納得してもらえるとと思う。



建設費・建設期間 5 名 13 %

3：南小 建設までのスピード感を一番重要と考える。今後の造成費、建設費が高騰で難しいとならないように用地取得、造成に時間がかからない南小が良いのでは。

7：どの地区に建設したとしても決まってしまうば、保護者は子どものために動くので、少しでも早く決定できればいいなと思います。未来ある子どもたちに借金を背負わせるのは心配ですが。

5：建設費がネック お金はタダではない

・学校の内容・形態としては全ての学齢期の子ども達を学習・生活で孤立させない学校として義務教育学校が適当 ・教育的に両設置場所での優劣は微小であり、学童全員が孤立しない学校（注目され、意欲と熱意ある教員が目指す小規模校）の実現のための最適地への立地 ・高速道開通後の人的動体変化やJRの運転区間見直しを想定した立地と教育活動運用過程での立地選定 ・用地整備や所得など建設費用よりも学校内容の充実に投資できる立地（南小敷地） ・教育委員会は独立した組織として調査研究を行い学童全員が孤立しない学校（注目され、意欲と熱意ある教員が目指す小規模校）の実現のため、行政の地域戦略と整合性を図るべき

10：南牧中学校に賛成。〇の少なかった建設費用と事業期間については、この委員会で心配することではなく、評価に値するとは思わない。

意見書

運用・職員確保等 4 名 10 %

17：私は中学校周辺にメリットがあると考えます。教員や部活、気候面から

20：災害のことを言われると何も言えなくなってしまうですが、今までの討議の中で南中周辺が良いと私は思います。（教員確保、支援教育、部活動等）

2：どちらもメリットデメリットある中で、結論を出すのは難しく感じます。学校を作る目的が防災等の複合的な部分を備える事なのか、学校の教育だけを考えるのかで変わる気もします。どちらでもいいということではなく、どちらも良い部分があるので決めるのはより難しいです。特別支援学級や教職員確保等がより充実する可能性がある場所が望まれると思います。

・学校の内容・形態としては全ての学齢期の子ども達を学習・生活で孤立させない学校として義務教育学校が適当 ・教育的に両設置場所での優劣は微小であり、学童全員が孤立しない学校（注目され、意欲と熱意ある教員が目指す小規模校）の実現のための最適地への立地 ・高速道開通後の人的動体変化やJRの運転区間見直しを想定した立地と教育活動運用課程での立地選定 ・用地整備や所得など建設費用よりも学校内容の充実に投資できる立地（南小敷地） ・教育委員会は独立した組織として調査研究を行い学童全員が孤立しない学校（注目され、意欲と熱意ある教員が目指す小規模校）の実現のため、行政の地域戦略と整合性を図るべき

部活動等 5 名 13 %

17：私は中学校周辺にメリットがあると考えます。教員や部活、気候面から

20：災害のことを言われると何も言えなくなってしまうですが、今までの討議の中で南中周辺が良いと私は思います。（教員確保、支援教育、部活動等）

13：以前から問題点として挙がっている、部活動への対応についてですが、海ノ口駅から中学が少し近いですが、600m程の差しかないので南小でも特に問題ない。川上中学校も拠点になり得ると思うので、同様であると思う。

14：どの建設地も魅力的なので、デメリットを無くす約束（市場坂の改良、JR駅までのバスを出す等）しっかりやれば反対意見も減って多くの人達が納得してもらえると思う。

* 現施設空き部屋利用で子供達の空間創設を作るのが良い * 部活の南部5ヶ村連携の為、利便性より現中学校存続が良い * 小学校は児童数の面から南小に統合が良い。児童数多く日本一高い小学校のインパクトと保護者教員発信で移住者等人口増加交換可能性あり * 北小は特別支援学校施設設置と雇用促進住宅設置、家族帯同化を含む教員住宅改修で教員確保に活用 ・ 小中学校統合は中部横断道開通後に状況を見て判断するのが良い

児童数・通学等 4 名 10%

11：児童数の推移を考えると、南小区の児童数が多いので、通学的手段としてスクールバス利用であれば、南小区で考えたいと思います。

27：南小学区の方は南小が良いでしょうし、北小学区の方は中学校が良いという意見が多いと思うので、もう一度中間地で建設することができないか検討してほしい。

16：南小が良いと思います。理由は沢山ありますが、そのうちの1つに児童数があります。文部科学省による「小学校施設整備指針」の第1章第3節に「（2）人口の自然増減や社会増減を検討して当該地域における児童数の将来動向を適確に推計し、学級編成の標準に関する将来の動向も考慮しつつ、計画を進めることが重要である。」と記されています。通う児童の多い方に建てるべきです。ただし、北小に通っている市場・広瀬・川平の保護者の意見を聞くべきです。（単に南中エリアとカウントするのではなく。）また、今回ご提示いただいた児童数の表をみると、最短5年後に学校ができたとして、該当する0才から10才の子どもの数は、北小で89名、南小で118名でした。

*現施設空き部屋利用で子ども達の空間創設を作るのが良い *部活の南部5ヶ村連携の為、利便性より現中学校存続が良い *小学校は児童数の面から南小に統合が良い。児童数多く日本一高い小学校のインパクトと保護者教員発信で移住者等人口増加交換可能性あり *北小は特別支援学校施設設置と雇用促進住宅設置、家族帯同化を含む教員住宅改修で教員確保に活用 ・小中学校統合は中部横断道開通後に状況を見て判断するのが良



行政の考え方 4 名 10%

2：どちらもメリットデメリットある中で、結論を出すのは難しく感じます。学校を作る目的が防災等の複合的な部分を備える事なのか、学校の教育だけを考えるのかで変わる気もします。どちらでもいいということではなく、どちらも良い部分があるので決めるのはより難しいです。特別支援学級や教職員確保等がより充実する可能性がある場所が望まれると思います。

8：選定するにあたり、村が学校をどの立ち位置で考えているのかが知りたいと思いました。学校中心なのか、村全体の中の学校なのかで変わるかなと思っています。村全体ならば、防災等も考えて選定した方が良いと思うし、学校中心なら距離やハザードマップを気にするなどで選定になるのかなと考えます。

・学校の内容・形態としては全ての学齢期の子ども達を学習・生活で孤立させない学校として義務教育学校が適当 ・教育的に両設置場所での優劣は微小であり、学童全員が孤立しない学校（注目され、意欲と熱意ある教員が目指す小規模校）の実現のための最適地への立地 ・高速道開通後の人的動体変化やJRの運転区間見直しを想定した立地と教育活動運用過程での立地選定 ・用地整備や所得など建設費用よりも学校内容の充実に投資できる立地（南小敷地） ・教育委員会は独立した組織として調査研究を行い学童全員が孤立しない学校（注目され、意欲と熱意ある教員が目指す小規模校）の実現のため、行政の地域戦略と整合性を図るべき

＊子どもたちの将来に対する学校義務教育課程の理念・行動指針を出しあい議論する場とするのが本筋 ＊一貫した多様性に順応出来る教育環境として9年制の義務教育学校が適当 ＊個人の能力に合わせて少人数学級、特別支援学級や孤立児童支援学級を含め、自由進度学習環境を取り入れた公立義務教育学校を作るべき ＊検討委員会の使命は校舎建設ではなく、特徴ある学校教育の体制・制度を討議する場 ＊設置場所は将来のインフラ・産業環境や人口流入・他地域合同の教育への移行の可能性などを考慮した村の長期経営戦略計画を勘案して決めるもので、委員会が出た意見を併記して行政の長に回答すべき ＊教育長・事務局・教育委員は行政から独立した委員・公務員として子供達の将来に責任を持って村長・村議への助言答申の責務を果たす事を望む

意見書



ここが良い4名 10%

その他2名 5%

記述なし

15：南小敷地利用がいいと思います。

26：南小エリアがベストだと思います。

10：南牧中学校に賛成。〇の少なかった建設費用と事業期間については、この委員会で心配することではなく、評価に値するとは思わない。

21：◎地域の中心を考えて南中付近がよい◎総合的に判断して、南小、南中付近どちらでもいいけど決定した所をどのように活用するかをしっかり考えたい

28：H30に行われた検討委員会と同じ事になっている。それぞれのメリット、デメリットを精査して、「村長」に決めてもらった方がよい。その上で、どんな学校にしたいかの議論をすべき。H30の委員は、佐久穂に出向いたり、できるかぎりの深堀りをしている。今のメンバーでどうしても決めるのであれば、北小、中学、南小に出向き、自身で見て感じた上でないと、感情論だけになる。「気候、風土、地域性、住民との近さ、将来性」のために委員一人一人ができることを考えて行動すべきと思う。

2つの建設候補地について、当委員会では当村の教育ビジョン『地域みんなで育てる・大人も学ぶ「共学び・共育ちの村」』このビジョンにふさわしい拠点となるような場所は、また子ども達のためにのぞましい教育環境は建設候補地のどちらであるのか、討議を重ねてきました。

第7回まで討議してきた委員の建設候補地に対する意見は、このように委員の立場や地域、視点により様々です。

意見書

そこで、第8回南牧村小中学校建設検討委員会において、事務局より第7回で提出した委員の意見から、下記のような意見骨子（案）が提案されました。

1. 小中一貫教育制度の導入検討

- ・義務教育学校、小中一貫型学校

- ・どういう教育を目指すのか

について、義務教育学校という学校種類がのぞましい

2. 建設地の選定

- ・どこで実施するのか

について、教育環境として2つの候補地の優劣がつけがたいので、村全体として多角的に検討し、建設地を選定する。

上記意見骨子（案）について、グループ討議を行い、委員それぞれで賛成・反対を提出しました。（※1. 小中一貫教育制度の導入については前述したとおりです。）

2. 建設地の選定について、事務局では委員の意見を上記のとおり意見骨子（案）としてまとめましたが、この意見骨子（案）に賛成する委員が24人、反対する委員が5人いました。反対する委員からの意見では、

- ・事務局案は現状の人数を基準とした設計であり、意見書を寄せられた方々には明るくとらえた人口増をイメージする発想があり、正にどのように育てたいかが魅力につ

意見書

ながると思いますので、時期尚早ではないかと思います。現状では人口減が顕著に思えますので、その対策を講ずべきと思います。

・南小が多い。その他の意見の中にも南中はどうか？とあるのであれば南小で建てるという意見で良いのではないか。

・その他の意見が多いため、多角的にだけでは無理があるように思う。

・行政の都合に学校が利用されてしまう。

・曖昧な表現の意見を一方的に「その他」と分類し、その結果を根拠に「判断が難しいため議会と村長に委ねる」という結論に至った手法は、極めて操作的に見えてしまいます。

私たち委員がこれまで費やしてきた時間や労力が軽視されたように感じ、深い落胆とともに、強い消化不良を覚えました。（反対意見一部抜粋）

との意見が出されました。また、下記のような提案も委員からありました。

・各自の率直な思いが可視化される投票設計が必要だと考えます。具体的には、以下のような多様な選択肢を設けた無記名での「正式な再投票」を強く求めます

南中

南小

どちらでもよい

決められない

回答したくない

その他（ ）

（反対意見一部抜粋）

意 見 書

その他、反対意見ではないが「優劣」という表現について違和感を指摘する意見がありました。

当委員会では、村長からのお尋ね書について意見を述べる委員会であることから、事務局から提案された意見骨子（案）について反対された委員の意見の取り扱いについて、委員に判断を仰ぎました。

その結果は、事務局案を支持する選択が多数を占め、委員による建設地の再投票を実施しないこととなりました。しかしながら、事務局ではご意見を頂いた「優劣」を「甲乙」に、「多角的～」を「様々な視点や立場から総合的に検討し、判断された建設地とされたい。」に変更し、最終討議を行いました。

意見書

第8回検討委員会後のまとめ資料

第8回振り返りカードまとめ		その他ご意見
1	反対 事務局案は現状の人数を基準とした設計であり、意見書を寄せられた方々には明るくとらえた人口増をイメージする発想があり、正にどのように育てたいかが魅力につながると思いますので、時期尚早ではないかと思ひます。現状では人口減が顕著に思えますので、その対策を講ぶべきと思ひます。	
2	賛成 沢山の意見を集め委員全体で協議を経た結果なので問題ないと思ひます。場所の議論になると、なかなかまとまりにくくなる。もちろんあたり前のことで、当然であると思ひます。その中で、本会の答え、考えは1本にはならないと感じました。その中で骨子2建設地の選定の内容については、まさしくその通りかと思ひます。私の考えも同様です。	特にありません。
3	賛成 小中一貫で意見をあげた方も、義務教育学校のメリットを感じ、いずれ義務教育学校にしようという考えのようなので、委員会のほとんどの方が義務教育学校がのぞましいと感じていると思ひます。建設場所は、委員会にて検討するのは難しいので、それぞれのメリットデメリットを委員会の意見としてまとめ、最終的に多角的に検討するという意見に賛成です。	
4	賛成 ②教育環境として、2つの候補地にしぼられたが、どこで建設されても子供にとって素晴らしい教育場になるだろうと思われ。村議会、村長が決めていただき、決定してもらいたい。（スピード感を大切に）	
5	①賛成 ②反対 1、①義務教育学校で良いと思う（自分達で考え実行できるように）2、②南小が多い。その他の中にも南中はどうか？とあるのであれば南小で建てるといい意見で良いのではないかと。	大人の勝手な意見で子供達に借金を背負わせるのはどうか？建てるのが決まっているのであれば、南小で建てると。（南中でかかると9校はなし）
6	賛成 少子化、学校建物の老朽化などを考えて新しい学校は必要だと思う。小中一貫教育制度についても今後のことを考えれば良いように思う。	資料の言葉の表現が難しく思ひました。建設については賛成で、とにかく安全で安心できる場所に作ってほしい。
7	賛成 新しい学校を建設して、子どもたちのために、みんなが同じ方向を向いてよい学校ができたらいいと思ひます。	委員として意見をまとめ村で決めてもらいたいと思ひます。
8	骨子の賛成 骨子の反対 骨子②についてはもう少しいい文言にしたいと思ひます。その他が多いため、多角的にだけでは無理があるように思ひます。	委員会で出た意見は両論を必ず併記していただきたいと思ひます。その他の意見がとも多かったのだと思ひました。
9	賛成 1、義務教育学校で意見集約できると思ひます。2、建設地の選定について 建設委員会では、建設候補地を1つに絞り込むことはできませんでした。よって建設地をどこにするかの決定は村にお任せします。決定したあかつきには、全面的に協力させていただきます。	村が責任を持って決定していただき、決定後は村が分断するようなことなく、課題に対して団結、結果できる様な仕組みにしたい。
10	賛成 1、多数決できたので 2、この委員会としては決められるのはこの辺までと理解するので。	
11	賛成 村議会の判断に委ねます。	最終判断は村議会に
12	賛成 義務教育学校が望ましいと思ひます。けど建設地の選定については、甲乙つけがたいです。	
13	賛成 ①賛成 ただし②建設地の選定について村全体として多角的に検討してもらい次回の委員会を決めたいです。	
14	反対 別紙	
15	賛成 建設地について優秀な校地がつきたいということでその他の数字が多く、今後の選定が難しいかと思ひますが今までの意見についても添付するということがないので、そこを丁寧に見ていただくことで委員全体の意見を見てもらって決定していただければいいと思ひます。	
16	賛成 ・義務教育学校がのぞましいと思ひ、建設地に関しては、第3の候補地を出したとしても時間がかかってしまうと思ひます。選定については、今まで多角的に検討しても決めがたい問題なので、委員会としては決定できないと思ひます。あとはお任せして最適な場所に建設をお願いします。	
17	賛成 義務教育学校を新設することに賛成です。建設地に関しては安全性（災害リスクの低さ）を最重視して是非選定して頂きたいと思ひます。建設地が決定した後が、とても重要だと感じています。	「2つの候補地の優秀な校地がつきたいので」の優秀という言葉は使わないで欲しいです。優、劣では、ないのですから～
18	賛成 候補地の優秀という表現が望ましくないのではないかと意見が出されました。そのとおりだと思ひます。その表現は検討していただきたい。どちらに決まっても、協力して気持ちをひとつにして進めていきたいと思ひはみな持っていると思ひます。	
19	賛成	
20	賛成 事務局案に賛成です。	
21	賛成 ①賛成 建設地について反対意見があるかもしれませんが今までの討議をみていて2つの候補地は村として総合的に判断していただきたいと思ひます。	
22		
23		
24	①は賛成 ①建物を造りっぱなしにしない。村が継続的に継続的に学校作りに関わっていく覚悟を持ってもらいたい。村の未来についても本当に真剣に向き合ってください。②当初から心配していた。結局行政の都合に学校が利用されてしまう。	教育委員会は抜きにして、もっとしっかり行政と住民が対話を重ねて建設地を検討してもらいたい。学校の内容作りについては、必ず住民の意見を盛り込むことを約束してください。
25	賛成 1、賛成 特設義務教育学校の対する反対意見は無さそうなので、2、賛成 どの場所になったとしても全員が賛成することはありえないので、村として一番良い場所を決めて頂くしかないと思ひます。	
26	賛成 事務局の方、ここまで資料の用意、会議のすめ方の工夫ありがとうございました。建設地の選定について「専門家や専門機関を交え」の一文を追加いただきたい。「メリット、デメリット」を洗い出したところでその解決方法を見出し、より未来を見据えた意見を取り入れてもらいたい。（教育面は先生など）「決め方」は署名や意見を広げすぎると感情の意思が出て、争う様になることが不安、各委員が前向きにより意見を言えるこの会も良くなると思ひますのでご配慮いただきたい。	今後、建設地が決まりましたら、「建設委員会」を設立し、今回メンバーにも事前に了承いただいた方を選出する方法をとっていただきたい。
27	賛成 小中一貫との2択なら義務教育学校です。	義務教育学校でも6年間の区切りは欲しい。場所は正直どちらでも良いと思ひます。住んで都にするしかないと思ひます。
28	賛成 収まる場所に収まった・・・という印象です。ただ少し残念だったのは、最初から村としての方向性を大まかに示してから会議を始めました。せっかくの夢のある建設なのに、選択肢が多すぎてネガティブな意見が周りで煮詰まっていたしんどかったです。皆さん真剣に考えて故の熱量だったと思ひますので、それを生かされず残念でした。	学校の先生の意見や、元教育委員会の方がお話ししていた先生の確保の難しさや、教員住宅を良くするため奮闘されたお話をとても興味深かったもので、皆の前で発表していただきたかった。何事に対しても、より良くするために話を進めていきたかったです。
29	賛成 今まで話し合ってきた意味、意見が含まれていると思ひます。（多角的ではあっているが、安全面をハザードマップのみならず1番に考えてもらえるといい。）	ありません。
30	賛成	皆さんに集まってもらって委員会を開く意味がないように思ひます。特に今日は
31	賛成 ①賛成 提出済みの意見書のとおりです。	

（反対意見別紙については、会議資料に添付されています。前頁で一部抜粋しています。）

まとめ

これまでの委員会の討議において、当委員会では2つの建設候補地について、委員の中でどちらかの建設候補地に意見統一を図ることができませんでした。2つの建設候補地を選定するにあたり、多くの委員が納得できる理由を、多くの評価項目を様々な視点から討議をすることで判断しようとしてしました。

しかし、様々な視点から討議することで、委員それぞれの考えや、価値観が錯綜し、前提となる当村の教育ビジョン『地域みんなで育てる・大人も学ぶ「共学び・共育ちの村」』このビジョンにふさわしい拠点となるような場所は、また子ども達のためにのぞましい教育環境は建設候補地のどちらであるのか、ということを見失わずに選定することが非常に難しくなった為です。それは、建設場所を選定するのにあたり、検討したどの要素も重要であると考えからこそ、判断が難しく、村全体の将来像と併せ検討する必要があると考えます。

以上のことから、当委員会としては、2つの建設候補地について、南牧村の20年後、30年後の姿と併せ、特性を持つ子どもや孤立した子どもを含む全ての学齢期の子どもの取りこぼしのない教育の提供という基本を外さず、住民の安全安心をはじめ村の中長期戦略など様々な要素から総合的に建設地を選定することをのぞみます。

なお、この意見書掲載以外にも、多くの意見が委員から寄せられています。意見書に添える、これまでの委員会資料や、議事録を丁寧に確認し、新しい学校建設地決定の1つの指針とされるよう努められたい。

南牧北小学校 沿革

明治	7年	海尻村に大月学校、海ノ口村に敦文学校、広瀬村に敦文学校支校を開く。
	8年	板橋村・平沢村に敦文学校支校を開く。
	22年	本校海尻にあり、海ノ口・板橋・平沢に分教場を置く。
	23年	南牧尋常小学校。海尻が本校。明治43年まで仮校舎。
	42年	海ノ口分校火災焼失。2部授業。
	43年	本校舎現在地に新築し、本校移転。海ノ口分校廃止。平沢・広瀬分校建築。
	44年	板橋分校建築。南牧尋常小学校に実業補習学校を併設。
	大正 6年	本校舎増築。
	8年	高等科併設。南牧尋常高等小学校。
	昭和 4年	野辺山市場にて、本校・広瀬・板橋の合同運動会行われる。
昭和	11年	本校舎改築落成。2階建てとなる。旧校舎を板橋・広瀬に移転。
	15年	皇紀2600年記念裏山美化作業植樹。
	16年	南牧国民学校となる。村民の労力奉仕にて校庭拡張。
	22年	南牧小学校と名称を改める。教育基本法・学校教育法公布。
	24年	野辺山分校開校式
	28年	本校給食室完成。完全給食開始。
	30年	本校講堂落成。
	36年	給食室付近より出火。宿直室・給食室・音楽室焼失。(2月10日) 新校舎落成。井出民蔵氏100万円寄付。
	38年	井出民蔵氏150万円寄付。水生動物池、音質、科学室などの施設設置
	40年	南牧教育90周年記念事業挙行。校章・校歌制定。記念誌発行
	44年	小中学校教職員寮、学校プール落成。大芝リンクにて校内スケート大会開始
	45年	第13回長野県野鳥巣架設利用コンクール特撰知事賞受賞。 裏山の土砂集中豪雨にて流出。裏山土砂崩壊防止工事。
	46年	広瀬分校廃止し、本校に統合。児童列車にて本校へ通学。
	52年	板橋・平沢分校を統合し、南牧南小学校、本校が南牧北小学校となる。
	56年	南牧北小学校校舎全面改築工事（第一期工事）開始。
	57年	第一期工事完了。第二期工事（体育館建設）開始。
	59年	P T A作業により校庭スケートリンクができる。
平成	3年	屋内温水プール完成。10月完成式と泳ぎ初め。
	9年	南牧北小学校校舎大規模改修工事が実施される。
	10年	コンピュータ教室完成。3学期からコンピュータを利用しての授業開始
	18年	校内音楽会を八ヶ岳音楽堂で初めて実施。～22年度19年 校庭芝化工事着工4月～8月末完成 第一回芝校庭運動会を開催
	20年	小学校教育課程研究協議会 社会科研究授業開催
	23年	校内音楽会を体育館で開催 地域の方も鑑賞 やまの子タイムで朝の運動を開始
	24年	小学校教育課程研究協議会 家庭科研究授業開催 第1回校内マラソン大会を実施 よい歯の学校優秀賞
	25年	スケートクラブ女子リレーで県1位となる。
	26年	よい歯の学校最優秀賞受賞
	27年	海尻地区も4月よりバス通学になる。 スケートクラブ男子リレーで県1位となる。
令和	30年	5月、田をお借りし、稲作りを始める。
	2年	3月新型コロナウイルス対応で、臨時休業措置を実施 4月に再度、臨時休業措置を実施 6月、静岡・山梨への修学旅行を行う。
	3年	GIGAスクール構想に対応し、一人1台のPCを導入
	4年	1月新型コロナウイルス対応で、臨時休業措置を実施
	5年	コロナウィルスが5類に変更され、全校児童がランチルームで給食再開。

南牧南小学校 沿革

昭和	52年	南牧南小学校新設・開校
	54年	体育館新築
	55年	南牧南小学校給食室閉鎖 共同調理場（中学校）にて給食開始
	57年	全国へき地教育研究大会・長野大会 第五分科会の会場校
	58年	校舎改築第一期工事完成
	59年	新校舎で授業開始 室内プールが完成し使用開始 新校舎竣工式（第二期工事・校庭・駐車場）
	60年	みどりの少年団結成 第一回水泳大会実施
平成	2年	石像「牧風」除幕式
	4年	F B C「中日賞」受賞
	6年	長野県学校給食優良校として表彰される F B C「長野県教育委員会賞」受賞
	7年	東信地区へき地教育研究大会会場校 F B C「長野県知事賞」受賞
	9年	パソコン教室（建物のみ）完成 TBSこども音楽コンクール「最優秀賞」受賞（2年生）
	10年	パソコン教室使用開始
	12年	第一回スキー教室実施
	13年	野辺山南地区の一部にスクールバスが運行開始
	14年	学校評議員制度が開始 南牧村所属のA L T着任
	16年	「南牧南小のこどもたち」展開催
	18年	青色回転灯による防犯パトロール開始
	19年	新体育館竣工式
	20年	新校舎(校長室・職員室・プレイルーム)竣工 FBC「中日賞」受賞
	22年	FBC「日本植物園協会賞」受賞
	25年	あおぞら学級開設
	26年	プール屋根改修工事竣工
	27年	県へき地教育振興協議会総会・研究協議会会場校
	28年	学校支援ボランティアの会発足 第一回学校運営委員会
令和	3年	一人一端末導入
	4年	新型コロナウイルス感染拡大予防のため臨時休業 「南小店」開店40周年セレモニー実施
	5年	ふれあいルーム設置 人権の花贈呈式

南牧中学校 沿革

- 昭和 22年

南牧国民学校の一部に開校
- 昭和 27年

本校新築落成
- 昭和 34年

平沢分校を廃止、本校に統合
- 昭和 37年

鉄筋コンクリート二階建校舎落成
- 昭和 40年

校旗・校歌制定
- 昭和 44年

銅板製プール竣工
- 昭和 51年

スクールバス導入
- 昭和 52年

独立中学校第一期工事
- 昭和 53年

第二期工事起工式
- 昭和 54年

校舎移転
新校舎開校式
第三期工事竣工式
プール使用開始。プール開き
- 昭和 56年

どうだん並木、しゃくなげ園完成。
- 平成 2年

パソコン教室新設
- 平成 3年

スクールバス新車購入
- 平成 7年

校舎大規模改修・体育館暖房設備新設工事
- 平成 8年

創立50周年記念式典
- 平成 9年

南牧村中学生海外研修事業 ニュージーランド
- 平成 13年

南牧村中学生海外研修事業カナダ
- 平成 15年

「南牧こまやか教育特区」認可
- 平成 18年

校歌編成完成
- 平成 23年

ボイラーを撤去し、管理教室棟、普通教室棟 F F
化完了
- 平成 24年

文科省人権教育指定校 2 年次発表会
- 平成 31年

全国中学校スケート大会男子団体 初優勝
- 令和 元年

全国へき地教育研究大会長野大会
- 令和 2年

全国中学校スケート大会で男子団体が 2 年連続総合優勝
- 令和 4年

全国中学校スケート大会で男子団体が 3 年連続総合優勝
- 令和 5年

全国中学校スケート大会で男子団体が総合優勝 4
連覇 女子 総合第 2 位

南校中学校校歌

作詩 草野心平
作曲 小山清茂

八岳われらの山
千曲川われらの川
この美しい大地に
われらは育ち
われらは学ぶ
おお先輩よ
誇らんわれらの母校

野恵にまぎれ流れ
飯盛に白雲わく
高理想に魂を燃し
われらは扶け
われらは初む
おお先輩よ
掲げんわれらの校歌

昭和五十二年春日
桂風書

